

業務システムの最適解を目指す

Windowsシステム 拡充プロジェクト

新日鉄ソリューションズ株式会社 NSFineFactory

.NETの登場から5年の間、.NET Frameworkのバージョンは1.0/1.1/2.0へと上がり、.NETテクノロジーは着実に進化を遂げているが、いまだに.NET以前のVBで構築したシステムを利用し続けている企業は多い。今回は、.NET以前のVBベースのシステムから.NET FrameworkベースのWebシステムに移行するための拡張フレームワークについて紹介しよう。

レガシーVBシステムのマイグレーション

新日鉄ソリューションズから提供されている「NSFineFactory」は、Visual Basic 4.0/5.0/6.0（以下レガシーVB）で構築したシステムを、ASP.NET+ Visual Basic 2005のWebシステムに移行するためのフレームワーク。移行に必要な/最適な機能を提供し、移行作業を軽減する。

NSFineFactoryが誕生したのは今から2年前の2004年。製品開発部門を統括する岩屋岳彦氏は、誕生の背景について次のように語る。

「4年前、とある金融関連企業のレガシーVBシステムをWeb化するという案件を手がけました。このときはじめ

てASP.NETを使ってWeb化を図りましたが、ASP.NETを使うとかなり開発生産性が上がると実感しました。

その後、市場調査を進めてみると、レガシーVBシステムを導入している企業が多数存在しており、Visual Basic 6.0のサポート切れや、クライアントへのプログラム配布の煩わしさなどを理由に、レガシーVBからASP.NETによるWebシステムへの移行を検討している企業が多いことがわかりました。

それなら、レガシーVBからASP.NETへ自動移行するためのフレームワークを作って、効率的に移行作業を進めれば、ビジネスとして成り立つのではないかと判断しました。このようにして開発されたのがNSFineFactoryです。

NSFineFactoryは、アーキテクチャやコードなどの変換を中心とした新日鉄ソリューションズのサービスの一部として機能しています」

Web化するための仕組み

では、NSFineFactoryにはどのような機能が搭載されているのだろうか。製品開発グループリーダーの服部勇氏は次のように説明する。

「NSFineFactoryは、主に3つの機能から構成されています。

ひとつ目の“NSFineFactory NetApps Framework ランタイム”は、レガシーVBからASP.NETへ移行したアプリケーションの実行環境です。レガシーVBとASP.NETのアーキテクチャや機能の違いを吸収します。

2つ目の“NSFineFactory NetApps Framework 移行ツール”は、レガシーVBアプリケーションの画面とコードをASP.NET用に自動変換するためのコンバージョンツールです。

3つ目の“NSFineFactory NetApps Framework 開発環境”。これは、Visual Studio 2005用のプラグインで、コード変換後のデバッグや修正、機能追加の際に利用します」



新日鉄ソリューションズ株式会社
金融ソリューション事業部
金融基盤ソリューション部長
岩屋 岳彦



新日鉄ソリューションズ株式会社
金融ソリューション事業部
金融基盤ソリューション部 グループリーダー
服部 勇

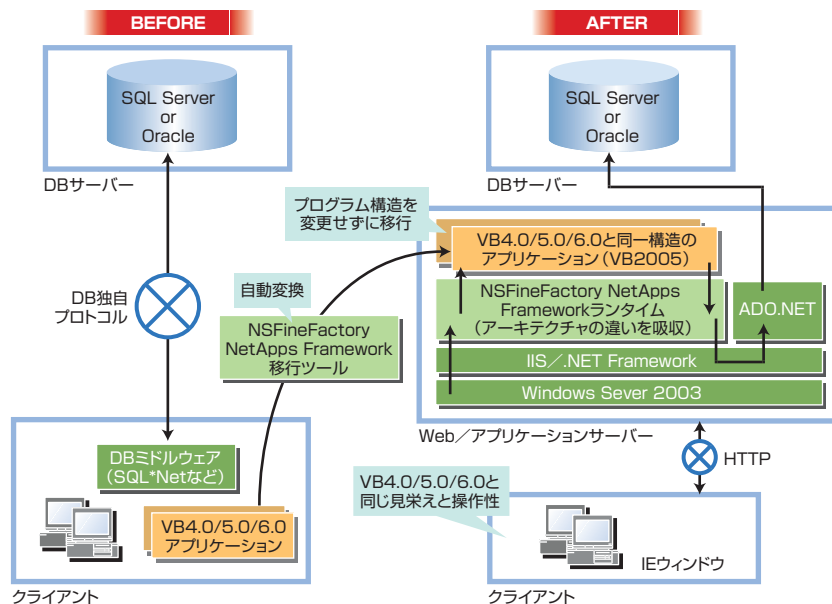
では、これら3つの機能を使って、どのようにシステムを移行するのだろうか。

「まず、レガシーVBシステムのソースコードを事前調査し、それに基づいてNSFineFactory NetApps Framework移行ツールをカスタマイズします。そして、この移行ツールを使って、レガシーVBシステムの画面やコードをASP.NET (VB2005) 用に自動変換します。変換されたWebシステムは、DBサーバー/Webサーバー/ブラウザ(クライアント)という3階層システムになり、変換後のプログラムはWebサーバーにすべて集約されますが、既存のレガシーVBシステムのプログラム構造は変わりません(図1)。

Webシステムに変換後、NSFineFactory NetApps Framework開発環境を使って、デバッグ/修正を行ないませんが、NSFineFactory NetApps Frameworkランタイムが提供するコンポーネントやプロパティ、関数はレガシーVBと同じ名前/使い方なので、レガシーVBライクな開発が可能です。また、独自のGUIコンポーネントを追加開発することも可能です」

このように、NSFineFactoryは、レガシーVB開発者を考慮した移行フレームワークであることがわかる。なぜ単

図1：レガシーVBシステムからASP.NETシステムへの変換例



体で提供されていないのだろうか。

「NSFineFactoryは、もともと.NETに敷居の高さを感じているレガシーVB開発者をターゲットに単体で提供する予定でした。しかし、レガシーVBアプリケーションをWeb化するには高度なノウハウを要します。というのは、サードパーティ製のActiveXが利用されていたり、外部アプリケーションと連携していたりなど、さまざまなケースを考慮しなければならず、単に移行ツールさえ使えばWeb化できるというわけではないのです。そのため、NSFine

Factoryを利用した“アーキテクチャ変換”をサービスとして提供しています」

今後のゆくえ

最後に、NSFineFactoryの今後の展開について聞いた。

「Windows Vista、“Longhorn”サーバー、Internet Explorer 7.0などの次世代マイクロソフト製品の提供が開始され次第、順次対応していきます。また、Ajax対応のコンポーネントなど、新たにさまざまな機能を拡充していく予定です」

拡充のポイント

- GUIコンポーネント/関数群などによって構成されるランタイムを用意。レガシーVBとASP.NETアプリケーションの差異を吸収
- コンポーネントや、レガシーVBとASP.NET (Visual Basic 2005) で文法が異なるコード部分を自動変換する移行ツールを提供
- Visual Studio 2005開発用のプラグインを提供。あらかじめレガシーVB同様の関数やプロパティなどが用意されているためレガシーVBライクな開発が可能